

2002年



ふるさと

吉田 稔 筆

No. 60

平成14年1月
●編集・発行
柏市増尾近隣センター運営協議会・広報部
増尾近隣センター
〒277-0033 柏市増尾3丁目1番1号 ☎(74)7211

謹賀新年



▲今年はうま年 中原中学校前「柏乗馬クラブ」のみなさん



平成14年元旦 柏市増尾近隣センター運営協議会 会長 吉田 稔

明けましておめでとうございます。

平成14年の新春を迎え、地域の皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

当協議会は、昭和55年11月に発足し、昨年11月18日創立20周年記念式を挙行することが出来ました。これも偏に柏市当局のご高配と、協議会発足当初から今日に至るまで、その運営に携わった多くの委員各位のご努力に加え、地域住民各位のご理解とご協力あつてのものと、深く感謝とお礼を申し上げる次第であります。

お陰様をもちまして私ども協議会活動の目指した住民

相互の交流と心豊かなふるさと運動の展開は、今日見るとおりふれあいと地域活動の輪を大きく広げ前進させることが出来ました。協議会活動の成果に因みその一端を申し上げますと、創立以来20年間で、当近隣センターの利用延人員は、160万人を越え又毎年の文化祭におきましても20年間で1万5000点に及びなど名実共に、地域の住民活動の要として機能していると思ひます。

これからも、協議会委員各位と協議を図りながら、よりよい運営に努力いたす所存でありますのでどうかよろしくお祈り申し上げます。

20周年を契機に思うこと

増尾近隣センター所長 桜井 宏一

市内17地区にあって、わが近隣センターをはじめ既に3分の1のセンターが20年の歴史を閲した。この期に及んで、センターや協議会組織のあり方につき見直しの論議がきかれる。むしろ遅きに失したといえるのかも知れない。ふるさと創生とが再生などというテーマも、ムラ社会（村落共同体）の完全な崩壊という戦後社会の冷厳な歴史の現実立つなら、随分おめでたい話だとして、そっぽを向く住民も少なくはない。

柏市は仏（近隣センター）を作って魂入れずとする批判もあるし、魂を入れるのは住民がやってこそ本物だという意見もある。地縁団体としての町会等があるのだから協議会の存在は所詮屋上屋を架すことにはならないのかという指摘等々もある。これらの意見に対し私には十分得心のいく説明を与えることができるという自信は実はない。だから私は今後の見直し論議に多いに賛成である。実際に新しい芽や方向は出て来ている。センター利用の新システムは、市民の生活圏という基本を踏まえながらも単なる地縁的活動を超えて共通の目的をもった市民活動団体（NPO等）がここを活動の拠点とする方向に開かれていると思う。また協議会が地区社協等との連携により様々な分野から多くのボランティア活動家を結集できれば、地域福祉の真の実現も夢ではないと思う。そのためには協議会自身が見直しの論議を活発にし、虚心坦懐にみんなの意見に耳を傾けることから始めたい。



平成14年・新春の行事日程



行事名	日時	会場	対象	参加費	申込み
新春 囲碁・将棋 大会	1月20日(日) AM9:00より	増尾近隣 センター (和室・調理室)	当近隣センター区 域に在住又は在勤 の方(50名)	500円	1月4日(火)~10日(日) 費用をそえて直接センターへ (AM10:00~PM5:00)
健康教室 健康な生活のための 講話とストレッチ 体操実技指導	2月23日(土) PM1:00~3:00	増尾近隣 センター (体育室)	当近隣センター区 域に在住又は在勤 の方(100名) 体操のできる服装	無料	詳細は回覧にてお知らせします

※ 芸能発表大会は3月10日(日)です。詳細お問い合わせは近隣センターまで。 ☎(74)7211



▲筆者の桜井所長(中央) レセプション風景

20周年

文化祭 11/3~4



▲恒例の作品展も力作ぞろいで体育室も華やぐ



▲1目が大切な手編み作品は「時を編む」感あり



▲寄せ植えは中央を高くして——講習会は大盛況



▲新鮮な野菜に大人気

手賀沼船上見学会 10/19

事業計画に基づき21名の参加者をもって手賀沼船上見学会及び柏プラネットを見学した。その昔、手賀沼周辺は緑と湖の閑静な環境で多くの文人墨客が住み、特に手賀沼の鰻は味が良く全国に出荷されたという。

世は変わり急激な人口の増加に伴い生活排水の流入などで沼は汚濁されたが、昨年4月から北千葉導水路の稼働により浄化改善されつつある。また新設された柏プラネット事業所では毎週水曜日に40台の収集車が約4回ピストン輸送でプラスチックごみを集め、この中には金属、衣類など異物が多数混入しており作業員が強い臭気の中手作業で選別、圧縮、梱包、保管、再生原料リサイクルなどを行っていた。

ごみの分別はもちろん一人ひとりが注意し余分な作業は解消することを考えさせられた。 環境部

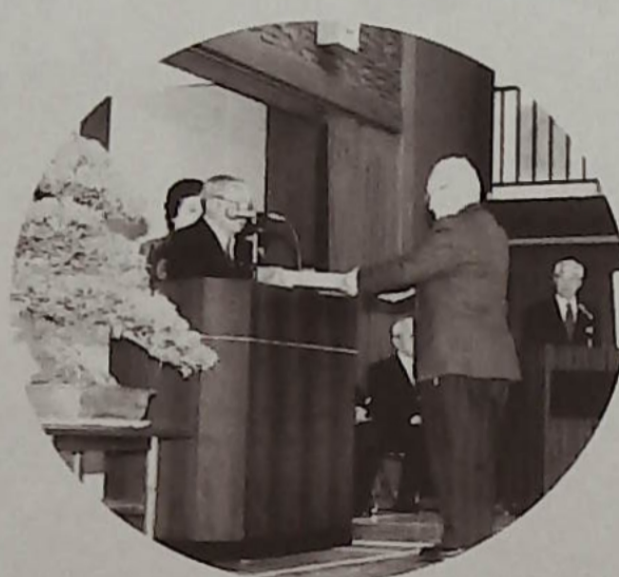


▲船上より手賀沼視察

記念式典&レセプション



▲来賓に市長を迎えて



▲感謝状贈呈



▲アトラクション 詩舞のみなさん

各部担当部長から 20年のあゆみ冊子より抜粋

★ 総務部の役割は運営協議会が円滑に進むよう、裏方としての業務に励んでおります。理事会の会場づくり、片づけ、出席者の名簿、議事録、名書類の整理、ファイル、他の部に所属しない行事に関わるものなど、潤滑油的存在になればと願っております。

総務部長 綿貫英志

★文化部の活動を通して地域を覗いていると和やかな、健やかな、活発な交流の中から「文化」が生まれるのではないかと思います。そのような中で私たち文化部員は皆様と共に「地域の文化の活性化」を目指していきたいと考えております。

文化部長 高橋宗博

★ 運営協議会のお手伝いを通じて快適な生活には相互扶助の精神が大切であることを強く感じ、保健体育部の役割は体育館を使った地域の相互交流の促進を優先してきました。しかし各町会、自治会の運営上ご苦労が見えるようになり20周年を契機に体育祭のあり方を再考する必要性を痛感しています。

保険体育部長 安富裕二

★ ・ごみは出来るだけ出さない。・繰り返し使えるものは再使用する。・新聞紙、空き缶、空きビン等は原材料としてリサイクルする。・どうしても捨てるものは環境を汚さないように十分気をつけて処分する。など処理法の優先順位が決められた。子孫に引き継いでいくためライフスタイルを見直しましょう。

環境部長 吉沢 栄

★ 増尾近隣センター運営協議会は、地域と常に相互融和を以て、組織的に五つの専門部をもうけ、夫々の分野で多彩な事業を行っている。当福祉部は次の三行事を実施しております。芸能発表大会。グランドゴルフ。ゲートボールなどです。

福祉部長 千代間新五

★ 広報誌「ふるさと」は1981年1月に創刊され現在に至っております。広報講習会で講師の方から「非常に読みやすく新しいタイプ」とご好評をいただきました。これからも頑張ります。 広報部長 夏目琴美

記念事業

体育祭 10/14



▲インディアカは素手で羽根をつく競技です

第21回体育祭は、運営協議会創立20周年記念事業の一環として第一部インディアカ大会、第二部シャトルゲームとボール送りゲームで町会・自治会対抗戦が行われました。インディアカは毎年アトラクションとして紹介を続けてきたゲームだけに、各チームとも互角の熱戦が繰り広げられました。優勝はAコートあざみ町会、Bコート増尾南ヶ丘自治会が勝ち取りました。第二部では例年通り親睦を深めることをモットーとしたゲームと福引きで和気あいあいと盛り上がり、総合一位は松野台自治会が射止めました。

保健体育部

ふれあい遊び こ体操教室

▲おなじみの石原由紀子先生(左)とちびっ子のふれあいです



パラパラ で

おかあさんもイキイキ!

11月17日土曜日の午後、初めは曇っていましたが、やがてちびっ子の元気を映して秋空が広がり、体育館の中もまぶしいくらいの日が射し込んできました。今回は100名の参加者のうち2歳児が約半分もあり、体操よりもマイクやスピーカーに興味を持って集団から抜け出すちびっ子もいましたが、この次はきっと上手に仲間に入れると思います。

タンボール製のキャタピラは作り直してやや大型になり2人乗りもできます。

前半の体操指導の中味が濃く、サーキットで遊ぶ時間が短くなったのがちょっと残念でした。

保健体育部

その他の活動報告

8/26 防災訓練 土小学校校庭に於いて各町会、自治会から782名の参加者がありました。

10/3 講演会 「年金と生活設計について」千葉県金融広報委員会の添田先生より生活設計と貯蓄についてお話を伺いました。

10/8 グランドゴルフ シルバースポーツ大会でしたが途中より冷たい雨に打たれて中断しました。

10/10~16 手賀沼写真展 センターロビーにて手賀沼の水、大津川の水、水道水、井戸水の比較と手賀沼写真展を開催しました。

ホームページのご案内

増尾近隣センターを中心に周辺の情報がホームページでご覧になれます。

是非アクセスしてみてください。

<http://www.5d.biglobe.ne.jp/~arukou/mati%20jouhou.htm>